



喜ばしい記録ではないですが、この夏は名古屋でも“暑さの50-50”（猛暑日-熱帯夜）を達成しましたね。この長い長い酷暑期間は我々人間だけでなく、農作物をはじめ自然界全体にも大きな影響を及ぼし、生態系においては野生動物への影響から私たちにも様々な悪影響が出そうで今後が心配ですね。

とは言っても長い長い“夏”もようやく一段落し、少しずつ秋らしくなってきました。2学期は、運動会、文化祭、音楽祭、学芸会など、それぞれの学校で様々な行事が予定されていることでしょう。自分にとって得意なこともあれば、苦手なこともあります。みなさん一人ひとりが目立たなくても、それぞれに与えられた役割に取り組んで、輝いてください。みなさんの活躍を祈っています。

今月の礼拝

単元23: 祈りについて

📖 …お話 🎵 …奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4～中高生) 9:00～9:30	プレイ・タイム (小学生／中高生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～10:20
10月 5 日	主の祈り	マタイ福音書 6:5-15 ルカ福音書 11:1-4	📖 武岡 基 🎵 武岡路実		📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
10月12日	求め続ける	マタイ福音書 7:7-11 (ルカ福音書 11:5-8)	📖 武岡 基 🎵 安達いづみ		📖 武岡 基 🎵 安達いづみ
10月19日	祈りゆだねる	サムエル記上 1 章	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ		📖 安達いづみ 🎵 武岡路実

単元24: 初代教会③

10月26日	エルサレム会議	使徒言行録 15:1-35	📖 安達正樹 牧師 🎵 武岡路実		📖 安達正樹 牧師 🎵 武岡路実
--------	---------	------------------	---------------------	--	---------------------

※聖書箇所やお話の内容・担当者は、変更することがあります。

特別伝道礼拝 & 集会のご案内

※朝の礼拝は通常どおり ティーンズ礼拝9:00～、こどもれいはい10:00～

◇10月12日（日）10:30～ 特別伝道礼拝（主日礼拝）

13:30～ 映画「アラヤシキの住人たち」（2015年117分）上映・懇話会

礼拝奨励・講師：宮嶋 信 さん 信州共働学舎（長野県小谷村）代表

CSのみなさんも、お家の方も、お気軽にお越しください。

共働学舎 1974年(昭和49年)、宮嶋信さんの父・宮嶋眞一郎さん(元自由学園教師)首唱のもと、心や体に不自由を抱える人たちと数人の仲間により、長野県小谷村で共働学舎は始まりました(立屋共働学舎)。その設立に信さんご自身も参加しました。1975年、同じ小谷村の山間部にある真木集落(1972年に12戸全員の離村により廃村)にあった築150年とも言われる大きな茅葺きの家「新屋敷(アラヤシキ)」を生活の拠点としてメンバーが住み暮らし「真木共働学舎」が始まりました。この2カ所を合わせて「信州共働学舎」と称し、当初6人で始め、現在では40名ほどのメンバーが2つの集団に分かれて自給自足の生活しています。その後、北海道小平町に「寧楽共働学舎」(1977年)、北海道新得町に「新得共働学舎」(1978年／代表は信さんの兄・望さん)、東京都東久留米に「南沢共働学舎」(1985年)を設立(2020年に東京都中野区に移転・通所施設)し、現在は5カ所で活動を続け、2024年に50周年を迎えました。

長野県小谷村 (おたりむら) 長野県の最北西に位置し、北は新潟県妙高高原に、西は白馬岳を越えると富山県に接しています。村内には梅池高原スキー場や白馬乗鞍温泉スキー場などスキー場が多数あり、特別豪雪地帯に指定されています。

今月の聖句

もと 求めなさい。そうすれば、^{あた}与えられる。^{さが}探しなさい。そうすれば、^み見つかる。
もん ひら 門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

(マタイ7:7)

今月のさんびか🎵



こどもさんびか 19 (てんにいますわたしたちのちち) 讃美歌21…62

今月のCS礼拝では「祈り」について学びます。今月のさんびか「てんにいますわたしたちのちち」は、「主の祈り」の言葉を元に表現（パラフレーズ）され、西インド諸島のカリブソの旋律がつけられた賛美歌です。カリブソとはカリブ海を中心に20世紀初頭に始まった音楽スタイルの一つで、元々は黒人奴隷制度（19世紀後半に廃止）によるアフリカ人奴隷たちがお互いに言葉が通じず、音楽やリズムでコミュニケーションをしたのが始まりとされています。また、現代のレゲエのルーツの一つともされています。

この曲はもともとジャズの大御所でありビッグバンドの創始であるデューク・エリントン楽団がコンサートの中で聴衆との「コール&レスポンス」のかけ合いで演奏したもので、いくつかの1980年代のアメリカ歌集には異なる編曲版で収録されています。コール&レスポンスは、ソリスト（または聖歌隊など）と会衆が交互に歌い交わす音楽のことで、『讃美歌21』『こどもさんびか改訂版』の楽譜に記されているように「先唱者／会衆」あるいは「リーダー／みんな」に分かれて唱和することのできるスタイルの音楽です。ソリストがさまざまな内容の歌詞を歌い、その合間に会衆が応答をはさんでいきます。

エドワード・K・エリントン（デューク・エリントン）さん（1899-1974）はアメリカ・ワシントンDCに生まれ、ジャズの世界にビッグバンド（トランペットやトロンボーンの金管楽器、サクソやクラリネットのリード木管楽器などホーンセクションに、ギター、ドラム、ベース、ピアノなどリズムセクションを加えた大人数によるバンド）を持ち込むことによってジャズ音楽に革命をもたらした音楽家です。小学生の頃からピアノを習い始め、高校では校内の催しなどでピアニストとして活躍、音楽教師からは高度な音楽理論を学び、17歳でプロのピアニストとしてデビューしました。彼の音楽への勉強の原点は「GフラットとFシャープの違いを学んだことからはじまった」と回想しています。彼の上品で優雅な風貌や身なりから、子どもの頃から「デューク（公爵）」というニックネームで友だちから呼ばれていました。デューク・エリントン楽団としては、「A列車で行こう（Take the 'A' Train）」、「キャラバン（Caravan）」、「スイングしなけりや意味がない（It Don't Mean a Thing (If It Ain't Got That Swing)）」など数多くの名曲を世に出しています。

唱えるだけの「主の祈り」から、歌う「主の祈り」へ、そしてギターやリズム楽器をなどを用いた祭りの「主の祈り」へと、それぞれの教会で実現できれば素晴らしいです。さらに、「先唱者／会衆」といった人と人によるコール&レスポンスだけではなく、「祈り」は「神さま／私たち」とのコール&レスポンスであることを意識したいものです。



おたんじょうびおめでとう🍰

10月生まれのお友だち

ハロウィンってキリスト教?!

近年は日本でもハロウィン（Halloween）が定着してきました。アメリカのテーマパークの影響だとも言われています。「アメリカのもの」＝「キリスト教のもの」と思われがちですが、ハロウィンはキリスト教の影響を多少受けているものの、実はキリスト教から発生した行事ではないのです。もともとは古代ケルト人（現代ではアイルランドやスコットランドなどにケルト系の民族が多い）の風習です。彼らは宗教的には自然崇拝で、この10月31日には収穫を感謝すると共に、先祖の霊が家族を訪ねてやって来る（日本で考えると「お盆」）と考えられていました。その後、古代ローマ文化やキリスト教などヨーロッパの様々な文化の影響を受けました。キリスト教的には、カトリックでは11月1日が「諸聖人の日（古くは「万聖節）」として大切な日であり、プロテスタントでは10月31日は「宗教改革記念日」であるので、いずれもキリスト教の教会ではこのハロウィンを受け入れることはしませんでした。アメリカへ移住した当初の人たちの多くはプロテスタント（ピューリタンなど）の人たちだったので、アメリカ移住が始まった頃にはアメリカでもハロウィンはありませんでした。19世紀にアイルランドやスコットランドからの移住が多くなりアメリカへもハロウィンが“輸出”され、その後、次第にアメリカ全土へと広まっていったのでした。今でもアメリカの厳格なキリスト教の地域や学校では「ハロウィンを行わないように」と通達が出るところもあるそうです。

